

給食だよ

宇美町立宇美東小学校
令和8年 1月号

1月24日～30日は「全国学校給食週間」

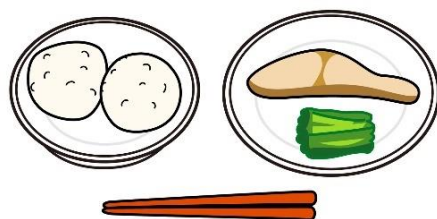
新しい一年が始まりました。3学期も安全でおいしい給食づくりに努めます。

「全国学校給食週間」は、学校給食の意義や役割などについて、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めることを目的としています。



学校給食の始まり

日本の学校給食は、明治22年(1889年)、山形県鶴岡町(現：鶴岡市)にある忠愛小学校で始まったとされています。貧しくてお昼ご飯を用意できない子どもたちに、無償で提供したものでした。その後、学校給食は子どもたちの栄養を改善するための方法として全国各地に広がっていましたが、戦争の影響などによって実施できなくなってしまいました。

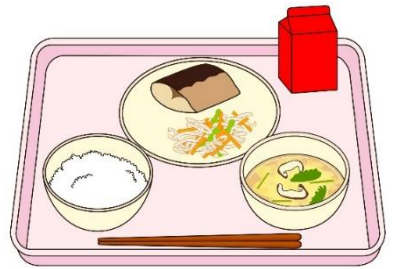


戦後、学校給食の再開

戦争が終わり、食糧難による子どもたちの栄養状態の悪化が心配されたことから、学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになりました。昭和21年(1946年)、アメリカのLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受け、翌年1月から学校給食が再開されました。当初は給食用物資の贈呈式が行われた12月24日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは冬休みと重ならない1月24日～30日を「全国学校給食週間」とすることが定められました。



がっこうきゅうしょく い きょうざい 学校給食は「生きた教材」に



がっこうきゅうしょく せんご えいようほきゅう もくてき じっし じだい うつ
学校給食は戦後、栄養補給の目的で実施していましたが、時代の移
り変わりとともに、食生活を取り巻く環境は大きく変化しました。
かたよ えいようせっしゅ ひまんけいこう けんこうじょうたい けねん てん おお
偏った栄養摂取、肥満傾向など健康状態について懸念される点が多
く見られる今日は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために、
がっこうきゅうしょく きょういくかつどう いっかん じっし べいはん ちゅうしん じもと のうさくぶつ つか
学校給食を教育活動の一環として実施しています。米飯を中心とし、地元の農作物を使った
りょうり きょうどりょうり せいかい りょうり きょうじしよく さまざま こんだて と い がっこうきゅうしょく い きょうざい
料理や郷土料理、世界の料理や行事食など様々な献立を取り入れて、学校給食は「生きた教材」
としての役割も担っています。

がっこうきゅうしょく もくひょう ＜学校給食の目標のポイント＞

1. 適切な栄養の摂取による健康の保持増進。
2. 食事について正しい理解を深め、健全な食生活を育む判断力や望ましい食習慣を養う。
3. 明るい社会性と協同の精神を養う。
4. 自然の恩恵への理解を深め、生命、自然を尊重する精神や環境の保全に寄与する態度を養う。
5. 食生活が多くの人々の勤労に支えられていることを理解し、感謝する。
6. 伝統的な食文化を理解する。
7. 食料の生産、流通及び消費について、正しく理解する。



が ち ひ 1月17日は「おむすびの日」です



へいせい ねん ねん がつ にち はんしん あわじだいしんさい はっせい きび さむ なか ひさい
平成7年（1995年）1月17日に阪神・淡路大震災が発生しました。厳しい寒さの中、被災し
た多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」でし
た。震災発生から5年が過ぎた平成12年（2000年）、「ごはんを食べよう国民運動推進協
議会」は、お米をはじめとする食料の大切さや、ボランティアの人々の善意を忘れないため
に、この日を「おむすびの日」と決めました。（その後、「公益社団法人米穀安定供給確保支援
機構」へと引き継がれています。）

きこう ひ つ
給食では、16日（金）におむすび用の焼きのりが出ます。自分でおむすびを作って、おいし
く食べてほしいです。そしてご家庭でも、おむすびを通じて、食への感謝の心や温かい心が
広がるといいなと思っています。

